



# Service Activation

この章では、Serviceability Service Activation ツールについて説明します。この章の構成は、次のとおりです。

- [Cisco CallManager サービスのアクティブ化 \(P.10-3\)](#)
- [Cisco CallManager サービスの非アクティブ化 \(P.10-5\)](#)
- [サービスの考慮事項 \(P.10-7\)](#)
- [サービスの削除 \(P.10-13\)](#)

Cisco CallManager Serviceability は、Web ベースの Service Activation ツールを提供しています。このツールは、サーバに対する Cisco CallManager サービスをアクティブまたは非アクティブにするために使用します。



(注)

Service Activation で Cisco CallManager および CTIManager サービスを非アクティブにした場合、サービスを非アクティブにした Cisco CallManager はデータベースから削除されます。つまり、Cisco CallManager はグラフィカル ユーザ インターフェイス (GUI) に表示されなくなるため、Cisco CallManager Administration の設定操作で Cisco CallManager を選択できません。

その後、同じ Cisco CallManager のサービスを再度アクティブにした場合、データベースは再び Cisco CallManager を作成し、サーバ名または IP アドレスに「CM\_」というプレフィックスを追加します。たとえば、IP アドレスが 172.19.140.180 であるサーバで Cisco CallManager または CTIManager サービスを再度アクティブにすると、Cisco CallManager Administration に「CM\_172.19.140.180」と表示されます。これで、Cisco CallManager Administration で、新しい「CM\_」プレフィックスが追加された Cisco CallManager を選択できるようになります。

図 10-1 は、特定のサーバに対するサービスのアクティベーション状況の例を示しています。

図 10-1 Service Activation を使用したサービスのアクティベーション状況

**Service Activation** [Control Center](#)

**Servers**  
 DLS2-CM102-CM4 **Server: DLS2-CM102-CM4**  
 Status: Ready

Update Set Default

Service Name	Activation Status
<b>NT Service</b>	
<input checked="" type="checkbox"/> Cisco CallManager	Activated
<input checked="" type="checkbox"/> Cisco Tftp	Activated
<input checked="" type="checkbox"/> Cisco Messaging Interface	Activated
<input checked="" type="checkbox"/> Cisco IP Voice Media Streaming App	Activated
<input checked="" type="checkbox"/> Cisco CTIManager	Activated
<input checked="" type="checkbox"/> Cisco Telephony Call Dispatcher	Activated
<input checked="" type="checkbox"/> Cisco MOH Audio Translator	Activated
<input checked="" type="checkbox"/> Cisco RIS Data Collector	Activated
<input checked="" type="checkbox"/> Cisco Database Layer Monitor	Activated
<input checked="" type="checkbox"/> Cisco CDR Insert	Activated
<input checked="" type="checkbox"/> Cisco CTL Provider	Activated
<input checked="" type="checkbox"/> Cisco Extended Functions	Activated
<input checked="" type="checkbox"/> Cisco Serviceability Reporter	Activated
<b>Tomcat Web Service</b>	
<input checked="" type="checkbox"/> Cisco WebDialer	Activated
<input checked="" type="checkbox"/> Cisco IP Manager Assistant	Activated
<input checked="" type="checkbox"/> Cisco Extension Mobility	Activated

106076



(注) Cisco CallManager サーバで作業している場合は、[スタート]メニューから Service Activation Web ページにアクセスできます。[スタート] > Cisco CallManager X.X > Cisco Service Configuration の順に選択します。

## Cisco CallManager サービスのアクティブ化

Service Activation ツールを使用すると、特定のサーバに対する Cisco CallManager サービスをアクティブにできます。



### 注意

サービスをアクティブ / 非アクティブにする場合は、Service Activation ウィンドウからだけ実行してください。Service Activation ページを使用せずに Windows Service Control Manager からサービスをアクティブ / 非アクティブにすると、データベース テーブルのエントリが追加または削除されないため、サービスが正しく設定または開始されず、Cisco CallManager データベースとの同期が正常に行われません。



### (注)

Cisco CallManager サービスは、Service Activation を使ってアクティブにしない限り開始されません。

### 手順

**ステップ 1** Cisco CallManager Administration ウィンドウから、**Application > Cisco CallManager Serviceability** の順に選択します。

Cisco CallManager Serviceability ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** **Tools > Service Activation** の順に選択します。

Service Activation ウィンドウに、サーバのリストが表示されます。

**ステップ 3** Servers ペインで、サーバを選択します。

選択したサーバのサービス名、サービスのアクティベーション状況、および Tomcat Web Service 情報がウィンドウに表示されます。



(注) Cisco Tomcat は、Cisco CallManager のインストール時に開始される NT サービスを指定します。デスクトップ インターフェイスまたは IP Phone インターフェイスが、サービスを取得するために初めて Cisco Tomcat への接続を試行すると、Tomcat は Cisco IP Manager Assistant サービスをロードします。

**ステップ 4** アクティブにするサービスの横にあるチェックボックスをオンにします。

**ステップ 5** アクティブにするサービスを選択したら、**Update** をクリックします。

選択したサービスと、**Activated** というアクティベーション状況がウィンドウに表示されます。



#### ヒント

**Set Default** ボタンをクリックすると、Cisco CallManager の実行に必要なサービスをすべてアクティブにできます。この操作を行うと、必要なサービスがすべて選択されるだけでなく、サービスの依存関係もチェックされます。**SetDefault** ボタンをクリックすると、単一サーバの設定に基づいてアクティブにされるデフォルトサービスが選択されます。複数サーバのクラスタ設定の場合は、[表 10-1](#) でサービスの考慮事項を確認してください。



(注) アクティブにされたサービスは、Control Center から開始または停止できます。Control Center Web ページにアクセスするには、Control Center リンクをクリックします。Control Center の詳細については、[P.10-1](#) の「[Service Activation](#)」を参照してください。

#### 関連項目

- [Cisco CallManager サービスの非アクティブ化 \(P.10-5\)](#)
- [サービスの考慮事項 \(P.10-7\)](#)

- サービスの削除 (P.10-13)
- 『Cisco CallManager Serviceability System Guide』の第 5 章「Service Activation」
- 『Cisco CallManager Serviceability System Guide』の第 6 章「Control Center」

## Cisco CallManager サービスの非アクティブ化

Service Activation ツールを使用すると、特定のサーバに対する Cisco CallManager サービスを非アクティブ化できます。



### 注意

サービスをアクティブ / 非アクティブにする場合は、Service Activation ウィンドウからだけ実行してください。Service Activation ページを使用せずに Windows Service Control Manager からサービスをアクティブ / 非アクティブにすると、データベース テーブルのエントリが追加または削除されないため、サービスが正しく設定または開始されず、Cisco CallManager データベースとの同期が正常に行われません。

### 手順

**ステップ 1** Cisco CallManager Administration ウィンドウから、**Application > Cisco CallManager Serviceability** の順に選択します。

Cisco CallManager Serviceability ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** **Tools > Service Activation** の順に選択します。

Service Activation ウィンドウに、サーバのリストが表示されます。

**ステップ 3** Servers ペインで、サーバを選択します。

選択したサーバのサービス名、サービスのアクティベーション状況、および Tomcat Web Service 情報がウィンドウに表示されます。



(注) Cisco Tomcat は、Cisco CallManager のインストール時に開始される NT サービスを指定します。デスクトップ インターフェイスまたは IP Phone インターフェイスが、サービスを取得するために初めて Cisco Tomcat への接続を試行すると、Tomcat は Cisco IP Manager Assistant サービスをロードします。Cisco IP Manager Assistant サービスの詳細については、[P.18-17 の「Cisco IP Manager Assistant \(IPMA\) の概要」](#)を参照してください。

**ステップ 4** 非アクティブにするサービスの横にあるチェックボックスをオフにします。

**ステップ 5** 非アクティブ化するサービスを選択したら、**Update** をクリックします。

選択したサービスについて、**Deactivated** というアクティベーション状況が表示されます。



#### ヒント

**Set Default** ボタンをクリックすると、Cisco CallManager の実行に必要なサービスをすべてアクティブにできます。この操作を行うと、必要なサービスがすべてアクティブになるだけでなく、サービスの依存関係がチェックされます。



(注) これで、アクティブになったサービスを **Control Center** から開始または停止できます。**Control Center Web** ページにアクセスするには、**Control Center** リンクをクリックします。**Control Center** の詳細については、[P.10-1 の「Service Activation」](#)を参照してください。

#### 関連項目

- [Cisco CallManager サービスのアクティブ化 \(P.10-3\)](#)
- [サービスの考慮事項 \(P.10-7\)](#)
- [サービスの削除 \(P.10-13\)](#)

- 『Cisco CallManager Serviceability System Guide』の第 5 章「Service Activation」
- 『Cisco CallManager Serviceability System Guide』の第 6 章「Control Center」

## サービスの考慮事項

表 10-1 は、すべての Cisco CallManager サービスと、各サービスの設定に関する有用な情報や考慮事項を示しています。Service Activation でサービスをアクティブにすると、そのサービスのノードに必要な従属サービスもすべてアクティブになります。サービスの詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』を参照してください。

表 10-1 サービスの考慮事項

サービス	説明	サーバ関連事項	考慮事項
Cisco CallManager	コール処理を可能にします。	N/A	このサービスを実行するサーバ上で、Cisco Database Layer Monitor と Cisco RIS Data Collector がアクティブになっていることを確認します。
Cisco TFTP	デバイスに関するファイルの作成と処理を行います。	クラスタ内で Cisco TFTP サービス専用になっている 1 つのサーバ上でアクティブにします。	クラスタ内の複数のサーバ上でこのサービスをアクティブにする場合は、Option 150 を設定します。
Cisco Messaging Interface	SMDI インターフェイスを使用するボイス メッセージ システムに使用されます。	クラスタ内の 1 つのサーバ上でアクティブにします。	Cisco Unity システムを使用する予定がある場合は、このサービスをアクティブにしないでください。

## ■ サービスの考慮事項

表 10-1 サービスの考慮事項（続き）

サービス	説明	サーバ関連事項	考慮事項
Cisco IP Voice Media Streaming Application	会議通話、Music On Hold、および Media Termination Point (MTP; メディア終端点) を可能にします。	クラスタごとに 1 つまたは 2 つのサーバ上でアクティブにします。  Music On Hold 専用のサーバ上でアクティブにすることもできます。	Cisco CallManager サービスを実行するパブリックデータベースサーバやその他のサーバ上では、このサービスをアクティブにしないでください。  このサービスを使用するには、クラスタ内の 1 つのサーバ上で Cisco TFTP をアクティブにする必要があります。
Cisco Telephony Call Dispatcher (TCD)	ハントグループと Cisco CallManager Attendant Console に使用されます。	クラスタ内で Cisco CallManager サービスを実行するすべてのサーバ上でアクティブにします。	考慮事項はありません。
Cisco Database Layer Monitor	データベースのフェールオーバーとフェールバックの管理、CDR の削除、変更通知の提供、および Cisco エクステンションモビリティを使用した電話機のログアウトを行います。	クラスタ内のすべてのサーバ上でアクティブにします。	サービスはすべて Cisco Database Layer Monitor に依存します。
Cisco CTIManager	ハントグループと Cisco CallManager Attendant Console に使用されます。	クラスタ内で Cisco RIS Data Collector を実行する 1 つのサーバ上でアクティブにします。	考慮事項はありません。



表 10-1 サービスの考慮事項（続き）

サービス	説明	サーバ関連事項	考慮事項
Cisco CTL Provider	Cisco CTL Client と連携して、セキュリティモードをノンセキュアからセキュアに変更します。	Cisco CallManager サービスおよび Cisco TFTP サービスを実行するすべてのサーバ上でアクティブにします。	Cisco CTL Provider サービスは、アクティブにするとデフォルトの CTL ポート (2444) に戻ります。ポートを変更する方法の詳細については、Cisco CallManager のセキュリティ マニュアルを参照してください。クラスタ全体のセキュリティモードをノンセキュアからセキュアに変更するには、Cisco CTL Client をインストールして設定し、このサービスをアクティブにする必要があります。

表 10-1 サービスの考慮事項（続き）

サービス	説明	サーバ関連事項	考慮事項
Cisco MOH Audio Translator	Music On Hold で個別設定されたメッセージを使用する場合などに、wave ファイルやその他のオーディオソースファイルを Music On Hold 用に変換します。	セキュリティの問題を最小限に抑えるため、Cisco TFTP サービスを実行しているサーバ上でアクティブにしてください。	<p>Cisco TFTP サービスを実行していないサーバ上でこのサービスをアクティブにする場合は、書き込み特権を手動で設定する必要があります。</p> <p>このサービスを使用するには、クラスタ内の 1 つのサーバ上で Cisco TFTP をアクティブにする必要があります。</p> <p>CPU の使用率を最小限に抑えるため、Cisco CallManager サービスを実行するパブリックデータベースサーバやその他のサーバ上では、このサービスをアクティブにしないでください。</p>
Cisco RIS Data Collector	電話機の IP アドレスなどのリアルタイム情報を収集および提供します。	クラスタ内のすべてのサーバ上でアクティブにします。	考慮事項はありません。
Cisco Extension Mobility Logout	Cisco Extension Mobility Logout ユーザをログアウトします。	N/A	考慮事項はありません。
Cisco CDR Insert	転送されたファイルの読み取り、CDR データベースへの内容の配置、および古いファイルの削除を行います。	CDR データベースが収容されたサーバ上でアクティブにします。	CDR データベースは、パブリックデータベースサーバに収容することをお勧めします。

表 10-1 サービスの考慮事項（続き）

サービス	説明	サーバ関連事項	考慮事項
Cisco IP Manager Assistant	マネージャとアシスタントがより効率的に協業できるようにします。	N/A	考慮事項はありません。
Cisco Extended Functions	Cisco Call Back や Quality Report Tool (QRT) などの Cisco CallManager 機能に対するサポートを提供します。	Cisco RIS Data Collector が実行されている 1 つまたは複数のサーバ上でアクティブにします。	クラスタ内のサーバ上で Cisco CTI Manager サービスをアクティブにしたことを確認してください。
Cisco Serviceability Reporter	ログに記録された情報に基づいて、1 日に一度レポートを生成します。各要約レポートには、その特定のレポートの統計情報を示すさまざまな図が含まれています。	Cisco CallManager パブリッシャ ノード上でアクティブにします。	コール処理への影響を減らすには、営業時間外にリアルタイムでないレポートを実行します。
Cisco WebDialer	Cisco IP Phone ユーザが Web およびデスクトップベースのアプリケーションからコールを発信できるようにします。	通常は、クラスタごとに 1 つのサーバ上でアクティブにする必要があります。	Cisco CTI Manager サービスがクラスタ内のサーバ（必ずしも Cisco WebDialer と同じでなくてもよい）上で実行されるようにします。
Cisco Certificate Authority Proxy Function (CAPF)	サポートされる Cisco IP Phone モデルにローカルで有効な証明書を発行します。	Cisco CallManager パブリッシャ ノード上でアクティブにします。  パブリッシャ ノードでも Database Layer Monitor サービスが必要であることに注意してください。	証明書の発行後に CAPF サービスを非アクティブにすることができますが、何らかの理由（証明書の削除、トラブルシューティングなど）で CAPF を使用する必要がある場合は、再びアクティブにする必要があります。

**関連項目**

- [Cisco CallManager サービスのアクティブ化 \(P.10-3\)](#)
- [Cisco CallManager サービスの非アクティブ化 \(P.10-5\)](#)
- [サービスの削除 \(P.10-13\)](#)
- 『Cisco CallManager Serviceability System Guide』の第 5 章「Service Activation」
- 『Cisco CallManager Serviceability System Guide』の第 6 章「Control Center」

## サービスの削除

サーバに対してサービスをアクティブにすると、アクティブにされたサービスごとにデータベース エントリが作成されます。サーバが Cisco CallManager クラスタから永続的に削除されても、その特定のサーバですでにアクティブになっていたサービスのデータベース エントリは存在しているため、Cisco CallManager Serviceability および Administration ウィンドウにあるサーバのリストには引き続き表示されます。データベース エントリを永続的に削除するには、Delete Services ユーティリティを使用します。削除されたサーバからサービスを削除する手順は、次のとおりです。

### 手順

- 
- ステップ 1** Cisco CallManager Administration ウィンドウから、**Application > Cisco CallManager Serviceability** の順に選択します。

Cisco CallManager Serviceability ウィンドウが表示されます。

- ステップ 2** **Tools > Service Activation** の順に選択します。

Service Activation ウィンドウに、サーバのリストが表示されます。

- ステップ 3** Servers ペインで、Cisco CallManager クラスタから永続的に削除されたサーバを選択します。

次のメッセージが表示されます。「Status: Connection to the server could not be established.Note: If this server has been permanently removed from the network, use Delete Services utility to remove the database entries.」[図 10-2](#) は、このリンクの例を示しています。

図 10-2 Delete Services リンク

The screenshot displays the Cisco CallManager Serviceability web interface. At the top, there is a navigation bar with links for Alarm, Trace, Tools, Application, and Help. Below this is the Cisco logo and the text 'Cisco CallManager Serviceability For Cisco IP Telephony Solutions'. The main heading is 'Service Activation' with a 'Control Center' link. On the left, a 'Servers' sidebar lists: CISCART7, Dummy, karlatest, and SampleTest. The main content area is titled 'Server: SampleTest' and shows a status message: 'Status: Connection to the server could not be established'. A note below states: 'Note: If this server has been permanently removed from the network, use [Delete Services](#) utility to remove the database entries.' The page number '79680' is visible in the bottom right corner.



(注) Delete Services ユーティリティは、サーバがネットワークから永続的に削除された後でデータベース エントリをクリーンアップする場合にだけ使用してください。

ステップ 4 Delete Services リンクをクリックします。

図 10-3 に示す、Delete Services ウィンドウが表示されます。

図 10-3 Delete Services ウィンドウ



79878

## ■ サービスの削除

**ステップ 5** Servers リストで、クラスタから削除されたサーバを選択します。ここで選択したサーバが、サービスを削除する対象となるサーバです。

図 10-4 に示すように、Delete Services ウィンドウには、残留しているデータベース エントリを含むサービスが表示されます。

図 10-4 サービスが表示された Delete Services ウィンドウ





ステップ 6 削除するサービスの横にあるチェックボックスをオンにします。

ステップ 7 **Delete** をクリックします。



(注) **Delete All** をクリックすると、すべてのサービスを一度に削除できます。

次の警告メッセージが表示されます。「Deleting services from this page will remove the database entries for the services. Use this option only if the server has already been permanently removed from the network. Click OK to remove the database entries for these service(s) -or- Cancel to keep the database entries.」



(注) **Delete Services** ウィンドウを使用して **Cisco CallManager** サービスを削除することはできません。このサービスを削除するには、**Cisco CallManager** ウィンドウを使用する必要があります。

ステップ 8 サービスを削除するには、**OK** をクリックします。操作を取り消すには、**Cancel** をクリックします。

#### 関連項目

- [Cisco CallManager サービスのアクティブ化 \(P.10-3\)](#)
- [Cisco CallManager サービスの非アクティブ化 \(P.10-5\)](#)
- [サービスの考慮事項 \(P.10-7\)](#)
- 『Cisco CallManager Serviceability System Guide』の第 5 章「Service Activation」

■ サービスの削除